

## ■フランス：大手事業者 Engie、電力・ガス・熱の補完的使用を提案

2018年5月7日の現地報道によると、フランスの大手エネルギー事業者 Engie（旧フランスガス公社）は、「エネルギー多年度計画」（PPE）改訂に関する公開討論に寄稿し、「電力のみをあらゆる用途（特に暖房と自動車）に使用すると、インフラへの過剰投資、消費者の負担増、安定供給のリスクなどを引き起こす可能性がある。エネルギーの安定供給と効果的な気候変動対策を実現するには、電力・ガス・熱の補完的使用が必要」と主張した。特にガスについては、暖房、産業、自動車のエネルギー源として不可欠であるとし、バイオメタンや合成メタン、水素などによるガスのクリーン化は優先事項としている。また、自動車の動力源としては、天然ガスは大型車、電力は軽自動車、水素は双方の補完に適しているとしている。加えて同社は、「イノベーションとデジタル化は、再エネ由来の電力による水素・ガス製造や、蓄電池による電力貯蔵の分散化などを後押しし、100%再エネの電源構成を実現するための重要な鍵」と述べている。なお同社は、2030年までの自社目標として、電源開発については太陽光 900 万 kW、風力 800 万 kW、洋上風力 350 万 kW とし、ガスネットワークに注入されるバイオメタンの生産量については 300 億 kWh としている。